

ASSOCIATION JAPON DE LA PRESSE SPORTIVE

日本スポーツプレス協会会報

NEWS



AJP 21

APRIL 30
2004

On the Way to ATHENS
PREVIEW 2004 GAMES



表紙
は語る

「北島の記事は?」との乾ホムページ委員長のリクエストにお答えして…と書いたところなのですが、基本的にカメラマンのわたしが直接彼にコンタクトする場面はなかったため、特筆するようなことはありません。(といつも直報聞いてない話をどうこう書く自信がなくて…今まで逃げてきたつもりでしたが、とうとう乾H委員長に突っ込まれてしましました。あんた幹!!)

細かな情報に関しては、すでに日本においていていると思いますし、レースの状況については、(ライブTVを観た人は)御自分の感覚を一番大切にしてください(何が無責任だって?、だって無縫だもん)。

ライブで観れなかった人、残念でした。ただ100m泳法の決勝レースは、僕自身のカメラマン人生の中でも、ベスト10に入るほど印象的なシーンでした。

(日本スポーツプレス協会ホームページより抜粋)

藤田孝夫
Takao FUJIYA

撮影者のプロフィール

1983年上旬、以後カメラマンの道を志す。90年にフォート・キシトから独立後、フリーランスとして現在に至る。オリンピック、世界選手権をはじめ、主として陸上競技、水泳、体操などのスポーツを被写体として追って撮影する。92年よりスピリットフォトに参画。現在AJPS会員担当撮影。



foreword

サッカーミュージアム開館に思う

石川 聰
Akira ISHIKAWA

AJPS入会前、「広報誌を手伝いますよ」という気楽なわたしのひと言に、「最初はだれでも、そう言うんです」と担当の白鶴隆幸氏。その言葉に、氏の経験してきた編集作業の苦勞がしのばれました。結局、わたしも年のうちの最多忙期と重なり、先輩諸氏の足を引っ張る羽目になってしまったことを、心苦しく思っています。

さて、多忙となった原因の一つは、17日間にわたる南米と欧洲へのサッカー取材です。今回は不思議と、展覧会、博物館に縁がありました。アルゼンチンのエンソースティスでは、ディエゴ・马拉ドーナに関する見覽会を見る機会に恵まれました。彼が所属したことのあるボカ・ジュニアーズ(アルゼンチン)の博物館も見学し、大西洋を越えたイタリアのミラノでは、「ジエゼッペ・マッツァ」スタジアムにある、地元の二大クラブ、ACミランとインテル・ミラノが同居する博物館を訪れました。

トロフィーやユニフォーム、写真パネルの展示、映像の紹介、やっていることは大差ないのですが、そこは歴史と実績に裏打ちされるだけに、思わず引き込まれてしまいます。これも、伝説的名手や名門クラブのマジックなのでしょう。

日本サッカーハウスにも、日本サッカーミュージアムがオープンしました。外国から訪れた人も足を止めるような、世界に誇れる品々が並ぶようになることを期待します。エンターテインメントという観点から言えば、正面は「清水和良コレクション」なんていふコーナーがあっても、面白いのではないかでしょうか。

C	O	N	T	E	N	T	S	
3 インフォメーション								
4 On the Way to ATHENS PREVIEW 2004 GAMES (アテネ・オリンピック日程表)								
陸上競技 6 水泳 8 サッカー 10 テニス 11 ボート 12 ウェイブリディング 12								
ホッケー 13 バスケットボール 14 陸上・新体操 15 バドミントン 16 レスリング 17 セーリング 18	カヌー 18 ハンドボール 19 自転車競技 20 卓球 21 近代五種 22 フencing 22 柔道 23 ソフトボール 28 テコンドー 29 トライアスロン 30	射撃 25 馬術 25 ボクシング 26 アーチェリー 26 野球 27 ソフトボール 28 テコンドー 29 トライアスロン 30	スキー 28 スケートボーラー 29 スノーボード 30 スケートボーラー 30 スキー 28 スケートボーラー 29 スノーボード 30	スキー 28 スケートボーラー 29 スノーボード 30 スキー 28 スケートボーラー 29 スノーボード 30				



<http://www.ajps.jp>

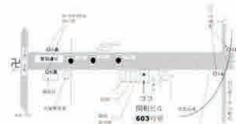
日本スポーツプレス協会の
事務局が
独立しました。

AJPS創立以来、念願だった事務局の独立が2003年6月1日にになりました。場所は東京都文京区音羽1-21-10関根ビル603(以前の事務所と同じビル、同じフロア)です。

スペースが倍になり、作業台を二つ設置しました。協会内の会議、作業など気軽に行えます。会員相互のフリースペースとしてご利用ください。ADSLのランコードも利用可能です。

原則的に会員の使用は無料ですが、事前に事務局の吉田まで使用時間、使用目的などをご連絡ください。

所在地:
〒112-0013
東京都文京区音羽1-21-10
関根ビル603
電話とファックス 03-3946-9033
HP <http://www.ajps.jp>
E-mail info@ajps.jp



AJPSのホームページがますます充実。スポーツの情報源として活用ください。

日本スポーツプレス協会(A.J.P.S.)のホームページが2003年6月から公式に広報委員会ホームページ分科会(乾晋也会長)の手で自主運営され、内容的にも充実してきております。

今すぐアクセスしてみてください。
「AJPS概要」では「AJPSの概要」「AJPS年表」「AJPS役員・理事」がご覧になれます。

「AJPSおしらせ」では「AJPSからのお知らせ」がご覧になります。AJPS主催行事(会場写真展、ボウリング大会、これまで発行された「AJPS NEWS」、「AJPS賛助会情報」)が検索できます。

「賛助会」では「AJPS協賛企業からのお知らせ」「賛助会企業のリンク」がご覧になれます。

「会員情報」では「AJPS所属全会員の情報」「AJPS入会案内」「AJPS会員展覧会&出版 情報」がご覧になれます。

「会員ページ」は会員専用ページです。アクセスするにはユーザーIDとパスワードが必要です。「理事会報告」「事務局よりお知らせ」「分科会及び取材に関するお知らせ」「賛助会企業連絡先」「事務局マップ」「会員専用掲示板」が検索できます。

「競技スケジュール」では毎月の主要スポーツスケジュール(国内と日本チームの主要遠征)が日ごとにご覧になれます。

毎月末に更新されます。
「スポーツ三昧」「うるまつコラム(毎日更新)」執筆は広報担当理事の白鶴隆幸(乾晋也会長)から寄せられた「報道取材現場レポート」「AJPSフトギヤラー(現在はAJPS会員の2003年編)『傑作スポーツ報道写真展』」が掲載されています。

「リンク」はスポーツ団体のホームページにリンクしています。JOC、体協、JOC加盟の競技団体のHPにクリックでつながっています。そこから国際競技団体にもアクセスできます。

「お問い合わせ」には当協会の連絡先が掲載されています。直接メールで事務局にもアクセスできます。

「English Page」にはこれまで並べていた項目の英文ダイジェストが掲載されています。項目としては「What's about A.J.P.S.」「Member's Information」「News from A.J.P.S.」「Member's Salon」「Event Schedule of Sports」(毎月の主要国際スポーツスケジュール。毎月末に更新)「Link of Sports Connection」(国内版リンクの英語版)などがあります。

今後もより充実したホームページを目指していきたいと考えております。まずは、アクセスしてみてください。

On the Way to ATHENS

P R E V I E W 2 0 0 4 S U M M E R G A M E S

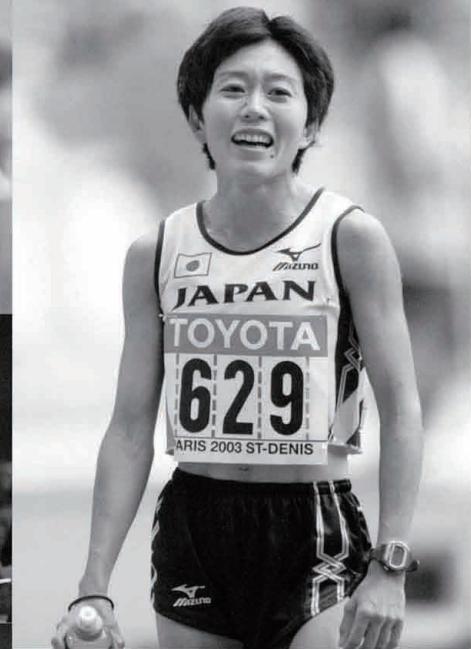
写真撮影：
乾晋也(S.I)、加藤誠夫(Y.K)、高橋学(M.T)、
柴田純(J.T)、芳賀伸哉(S.H)、日比野武男(T.H)、
藤田孝夫(T.F)、宮田永明(N.M)、望月仁(H.M)

近代オリンピックがスタートして108年。古代オリンピック発祥の地ギリシャにオリンピックが戻ってくる

8月13日に開幕される第28回オリンピック夏季大会。近年のオリンピックでは、柔道を中心限られた競技しか期待できなかつた日本。しかし今回は選手・関係者の努力により国際競技力が向上、メダル有望種目が実に多岐になつています。

そこで今回の『AJPS NEWS』では、日本スポーツ
プレス協会所属のライター会員が手分けして、各競技
の見どころ、日本選手の動向を競技別に取材、執筆し
てみました。

世界最高峰のアスリートたちの4年に1度の競演。日本とギリシャの時差の関係で、決勝種目の多くは日本の真夜中に実施されますが、このリポートを参考にアテネ・オリンピック「真夏の夜の夢」をお楽しみください。

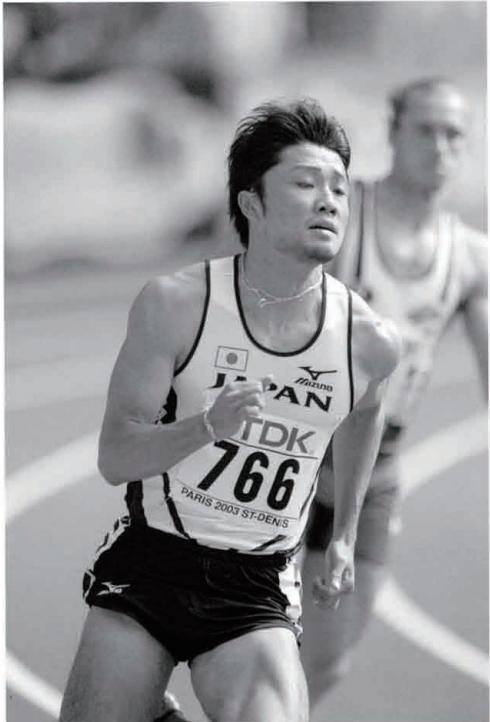


TRACK & FIELD ATHLETICS

陸上競技

(文)寺田辰朗

末續、室伏、 女子マラソンがメダル候補



末續慎吾 (Photo by H.M.)

内定基準のアウトルайнはすでに決定しており、2003年8月の世界選手権(アリ大会でメダルを獲得した3選手(1種目最大1名)が、その時点で代表に内定した。男子200mの末續慎吾(東海大)と同点マー投げの室伏広治(ミズノ)、そして女子マラソンの野口みづき(グローバリー)、3人の強化は基本的に、各専任コーチに任せられているが、「練習状況は途次、澤本啓介強化委員長に報告されることになっている」(田中淳浩広報委員長)とのことで。

末續はバルセロナ五輪400mファイナリストの高野進氏(東海大コーチ)、室伏は「アジアの鉄人」と言われた父・重信氏(中京大監督)とともにかつて世界を相手に戦った経験があるコーチ。野口を指導する藤田信之氏(グローバリー監督)は対照的に、コーチとして手腕を發揮してきた62歳の熱血漢である(指導した選手が400mから1万mまでの日本記録を更新している)。むろん高野・室伏両コーチも、研究熱心さでは超一流である。

3人はアテネ五輪までの長期視野に立った練習計画が立案できる。それぞれがポイントとする試合(野口はマラソンではなくマラソンやトラック)できっちり結果を出しながら、8月の本番を迎える。

陸上競技全体会派遣人数は、日本陸連とIOCの折衝を重ねて決められるが、最終決定は04年7月以降になりそうだといい。実質的な最終選考会である日本選手権(04年6月)後ということで、A標準記録(表参照)突破者だけに絞るのか、B標準記録の選手まで派遣するのか、あるいは種目によって選考基準が異

なるのか、ボーダーラインは現時点では未定である。選手サバから見た場合、すでに発表されている基準の「A標準を突破して日本選手権に優勝する」のが、最も確実に代表となる方法だ。

マラソンはトラック&フィールドとは選考方法が異なる。11月から3月の男女各3レース(男子は福岡・東京・びわ湖、女子は東京・大阪・名古屋)と、すでに終了している世界選手権が選考レース。女子は世界選手権で野口が内定したため、残る3レースで2人を、男子は世界選手権で内定選手が4人、3レースで3人を選んだが、一般種目と違い内定基準は発表されていない。野口以外の5人は、選考レースが終わった3月に陸連が決定した。女子は土佐礼子(三井住友海上)、坂本直子(天満屋)が選ばれ、千葉真由(農林自動織機)が補欠となつた。男子は国近友明(エスビー食品)、油

谷繁(中国電力)、諫訪利成(日清食
品)の3人が代表に、高岡寿成(カネボウ)が補欠に選ばれた。

派遣人数は前回のシドニー五輪が40人。しかし、参加標準記録はかなり引き上げられ、前回以上の人数が派遣できるかどうかは流動的。前述のように、B標準の選手を派遣するかどうかが未決定なのだ。

「2001年に澤木強化委員長が就任し、強化委員会のスタッフも充実しました。前回の世界選手権(メダル3個)、今年(2003年)の世界選手権(同4個)と、日本の陸上競技が高い水準にあることを示すことができています。これから冬場の強化策を充実させ、万全を期してアテネ五輪に臨みます」

田中広報の口ぶりからは、派遣人数に関して自信のほどが伝わってくるのだが。



野口みづき (Photo by H.M.)

■アテネ・オリンピック参加標準記録

男 子	種 目	女 子
A標準	B標準	A標準
10.21	10.28	11.30
20.59	20.75	22.97
45.55	45.95	51.55
1:46.00	1:47.00	2:00.00
3:36.20	3:38.60	4:05.80
13:21.50	13:24.40	15:08.70
27:49.00	28:05.00	31:45.00
2:15.00	2:18.00	2:37.00
8:24.60	8:32.00	9:00.00
13:55	13:72	11:00ハーフ
		100mハーフ
49.20	49.50	55.60
1:23.00	1:24.30	1:33.30
4:00.00	4:07.00	50km競歩
4:31:59ルーム		4x100mルーム
4:31:59ルーム		4x400mルーム
8:000	7:700	10種目走/ブロック走
2.30	2.27	走り高跳
5.65	5.55	跳高跳
8.19	8.05	走り跳丸
16.95	16.55	三段跳
20.30	20.00	短丸跳
64.00	62.55	円盤投げ
78.65	74.35	ハンマー投げ
81.80	77.80	やり投げ
		60.50
		56.00

【条件】

- すべての記録は「マラソンを除き」、2003年1月1日から2004年8月9日(現地時間真夜中)までの資格期間に達成されなければならない。マラソンの資格期間は2002年9月1日から2004年8月9日までとする。
- すべての記録は(リレーを除き)IAAF、地域陸連または各國陸連の主催大会または公認大会で達成されなければならない。従って、大学または学校の公認大会で達成された記録は、競技会が開催された国の陸連によって承認されなければならぬ。
- すべての記録は、IAAF競技規則に従って開催された公式の競技会で達成されなければならない。
- 競技会内のみで男女混合で行われた種目で達成された記録は認められない。(IAAF第147条参照)
- 追加参考記録は認められない。
- 100m、200m、400m、110mハーフ、400mハーフ及び4x100mリレーでは手動計時による記録は認められない。
- すべてのフィールド競技及び200m以上のレースの室内記録は認められる。
- 下の手順制限:マラソン及び男子50km競歩については、成人の選手(2004年12月31日現在)20歳以上の選手のみが認められる。
- マラソン(2003年アリヤ世界選手権)で男女ともマラソン20歳以内の選手はA標準を突破したもののみなされる。記録はちゃんと計測されたコースで走るだけなければならない。
- リレー:各リレー競技において、IAAFまたは地域陸連公認の競技会で、2003年1月1日から2004年7月21日の間に達成された最もよい上位2つの記録の平均をベースに、それぞれのリレー種目で上位16のナショナルチームが参加資格を得る。

SWIMMING

DIVING, WATER POLO & SYNCHRONIZED SWIMMING

水泳

文 白髪隆幸

水泳ニッポンの復活なるか!?

昨年のバルセロナ世界選手権で大躍した日本水泳陣。特に100m×200m平泳ぎの2種目を世界新記録で制覇した北島康介(東京SC)には金メダルの期待がかかる。1月のワールドカップでは疲れと微妙なフォームの崩れからライバルのモーゼス(アメリカ)に敗れをとったが、北島と平井伸昌コーチら「チーム北島」のスタッフたちは必ずテネ本番までに巻き返しを狙うだろう。もじアテネで2種目制覇となれば、日本人初の快挙となる。

世界選手権男子200mバタフライで2位となった山本貴司もカナダの名伯楽バード・マカリスターの指導の下、ペテランらしいマイペースの調整でアテネを狙う。水泳ニッポンの主将格・山本の存在は任何にも替えがたい。北島と山本を中心とする男子4人リレーも世界選手権で銅メダルを獲得しており当然アテネのメダル候補だ。

女子では厚い選手層を誇る背泳ぎに期待が集まる。稲田法子が世界選手権で銅メダルを獲得した50mはオリンピックでは実施されないが、今年に入りてから短水路ながらワールドカップで200mを連覇した中村礼子、100mの第一人者・中

村真衣、美人スイマーとして人気の高い寺川綾、伊藤華英ら多彩だ。1年間休養した萩原智子は、自由形短距離でアテネを目指す。

世界選手権200mバタフライ銅メダルの中西悠子、自由形800mの山田沙知子らにも期待がかかるが、いずれにせよ4月20日~25日まで東京辰巳国際水泳場で開催される第80回日本選手権で各種目2位までに入り、かつアテネ・オリンピックの標準記録を破ることが必要絶対条件となる(詳しい選考基準は右記の通り)。

飛び込みは2月のアテネ・ワールドカップで宮崎多紀理が高飛び込みで位に入り注目を浴びた。男子飛び板飛び込みで寺内健が4位に入り、本番での活躍が期待できる。

メダル有望なシンクロナイズスイミングは、チーム、デュエットともメダル有望。すでに代表選手を決定し最終選考会(4月15日~18日)で位となりアテネ出場枠を得た。ペテランの立花美哉、武田美保を中心に史上初の金メダルに挑戦する。

水球は残念ながらアジア最終予選で男女とも敗退、本大会出場の雄団は折たれた。



山本貴司(右) (Photo by J.T)



立花美哉 (Photo by S.H)



武田美保 (Photo by S.H)

■2004アテネ・オリンピック大会派遣標準記録

男 子		種 目		女 子	
派遣標準記録 I INOC2名位	派遣標準記録 II INOC2名16位	種目	派遣標準記録 I INOC2名位	派遣標準記録 II INOC2名16位	
22.18	22.32	50m自由形	25.07	25.30	
48.95	49.31	100m自由形	54.55	55.07	
1:48.10	1:48.92	200m自由形	1:58.44	1:59.47	
3:47.70	3:50.53	400m自由形	4:08.60	4:10.21	
		800m自由形	8:28.73	8:34.91	
15:03.88	15:11.16	1500m自由形			
54.54	54.95	100m背泳ぎ	1:01.02	1:01.49	
1:58.37	1:59.07	200m背泳ぎ	2:10.27	2:11.58	
1:00.70	1:01.54	100m平泳ぎ	1:08.09	1:09.01	
2:11.31	2:13.19	200m平泳ぎ	2:25.84	2:27.87	
52.27	52.83	100mバタフライ	58.77	59.43	
1:55.90	1:57.83	200mバタフライ	2:08.66	2:10.58	
2:00.29	2:01.47	200m個人メドレー	2:13.42	2:14.53	
4:15.46	4:18.68	400m個人メドレー	4:40.84	4:45.05	

標準記録は、2003年9月30日の世界ランキングを基に2001~2003年の3年間で作成した。

■アテネ・オリンピック競技大会日本代表選手団編成方針

日本選手団は、成績や規則を遵守し、活力ある日本を代表するに相応しい選手・役員をもって編成する。なお、選手は当該国際競技連盟により出場権を与えられ、かつ十分な活動が期待できる者の中から選出する。

■アテネ・オリンピック大会選考方法

選考は、選手の成績から日本水泳連盟選手選考委員会があたりアテネ・オリンピック大会において実施される競技種目の選考の対象とする。

1. 選考会は、各競技種目別に標準記録II位突破者は自動的に選考者。ただし、編成方針を定め、守らざる限り、対象選手及びワーストの同競技をもって代表選手に決定する。

2. リレー種目のための選手の補強は、日本水泳連盟選手選考委員会が会員編成方針に沿って選考する。

※派遣標準記録の同タイムを突破とみなす。また、派遣標準記録II位突破1位が名以上、2位が2名以上上位についた場合はスイオブにて確定する(スイオブ執行時間は、対してとくに規定がない)。

なお、各エントリーは、選手会の成績と優先、チームの監督、ヘッドコーチが決定する。

リレーに関しては、リレーメンバー4名の内、決勝は派遣標準記録II位が名以上で以下の条件をクリアした場合、リレーメンバーの補強は行なう。エントリーする。

ただし、男女400mリレー、800mリレーは、各競技種目別に標準記録II位が名以上で以下の条件をクリアした場合、リレーメンバーの補強は行なう。

男子400mリレーは、各競技種目別に標準記録II位が名以上で以下の条件をクリアした場合、平泳ぎ、バタフライ、自由形。

男子 55.05 1:02.54 53.83 50.31
女子 1:02.49 1:10.01 1:00.43 56.07

SOCCEER サッカー

(文)大住良之

36年ぶりの メダルに挑む男子



U-23日本男子のストライカー大久保(Photo by N.M.)



日本女子もアテネをめざす(Photo by M.T.)

オリンピックのサッカーは、1908年ロンドン大会で正式に始まり、96年アトランタ大会から女子が加わった。男子は原則として選手の出場資格が23歳以下(1981年以降の生まれ)に限定されている。アテネ大会は男子16チーム、女子10チームが参加し、ともに開会式に先立って8月11日に開幕。閉会式前日の28日まで開催される。日本の男子は3大会連続の出場を達成。女子は2大会ぶりの出場を目指す。

男子のアジアからの出場枠は3。日本は第2次予選から出場。2003年5月に東京でミレニアムと対戦して3-0、5-0で連勝。最終予選出場を決めた。最終予選は同年8月から11月にかけて開催される予定だったが、イラク戦争と新型肺炎(SARS)の流行で第2次予選の消化が遅れ、2004年3月にずれ込んだ。

最終予選は、出場12チームを4チームずつ3組に分け、2回戦総当たりのリーグ戦を行って各組1位が出場権を得る方式。2000年ドーニー大会出場の日本、韓国、クウェートが決まり、日本はバーレーン、UAE、レバノンという西アジアの3チームとともにB組にはいった。中国、イラン、サウジアラビアといった強豪との対戦が避けられたのは幸運だった。

B組の12試合は、2004年3月1日から5日にUAEで前半の6試合、3月14日から18日に日本で残りの6試合という「変則的ホームアンドアウェー」方式で開催された。

日本は、UAEラウンドで3月1日、バーレーンに0-0と引き分け、3日にレバノンを4-0、5日にUAEを2-0と連勝、首位

で前半を折り返した。日本ラウンドは14日、バーレーンに0-1と敗れたものの、16日にレバノンを2-1、そして18日にはUAEに3-0と勝利。見事に3大会連続のオリンピック本大会出場を決めた。UAEが強敵と見られていたが、バーレーンが予想以上に強力で1分け1敗と負け越すといふ苦しい戦いの連続だった。

本大会では、18人の登録選手のうち3人までは、「オーバーエージ(年齢制限外)」の選手を使うことができる。アジアカップ(7月17日~8月7日)の直後になると、A代表選手の参加は難いが、弱いポジションの補強のために、山本昌邦監督がこの3人枠を利用する可能性はある。

一方、女子のアジア出場枠は2。アジア予選は、この3月に日本の広島と東京で開催される。女子日本代表は、2003年9月の女子ワールドカップで優勝したドイツに0-3と健闘している。北朝鮮、中国といいうアジアの二強の一角を倒さなければならぬので榮ではないが、上田栄治監督の下、チームがまとまっているので期待したい。

■アテネ・オリンピック男子サッカー大陸別出場枠	
アジア	3 (日本は決定)
アフリカ	4 (ギニア、マリ、モロコシ、ガーナ)
北中米カリブ海	2 (コスタリカ、メキシコ)
南アメリカ	2 (アルゼンチン、パラグアイ)
オセアニア	1 (オーストラリア)
ヨーロッパ	4 (開催国ギリシャは決定)
合計	16

■アテネ・オリンピック女子サッカー出場枠	
アジア	2 (4月24日に決定)
ヨーロッパ	3 (ギリシャ、ドイツ、スウェーデン)
北中米カリブ海	2 (アメリカ、メキシコ)
南アメリカ	1 (ラジジル)
アフリカ	1 (ナイジェリア)
オセアニア	1 (オーストラリア)
計	10

TENNIS テニス

(文)山崎浩子

出場すればメダル候補の杉山愛



杉山愛(Photo by S.H.)

テニス競技にとってオリンピックという存在は微妙な位置にある。

その価値は、全豪、全仏、全英、全米の四大大会よりも上にあることはなく、他の競技が思うほど、オリンピックに執着心はない。

よもや、オリンピックと四大大会の開催期日がぶつかることはないだろうが、ウィンブルドン(全英)とオリンピックのどちらを選ぶかと問われれば、すべての選手が「ウインブルドン」と答えると言って過言ではない。

それほど四大大会に出場すること、そこで勝つことは、テニス選手にとって非常に意味があることなのである。

よって、みな毎週のように世界各地で行われるツアーに参加し、ポイントを稼いで世界ランキンгиを上げることに必死になる。試合に出場できるか否かはランキンギがものいい、たとえ出場できるチャンスがあっても、ランキンギ上位者でなければ、本戦に出席する前に厳しい予選を勝ち抜いていかなければならない。すべてが、ランキンギに支配されているというわけである。

オリンピックの場合も、ランキンギによって該当する選手がリストアップされる。そのリストが出ないことは、日本からどの選手が行くのかわからないのが、WT Aランキンギ・ダブルス1位、シングルス11位(11月3日現在)の杉山愛はリストアップされる可能性が大。そして杉山の、「参加します」という意思があつて初めて、オリンピックへの道ができるのだ。

ソウル大会からは、世界のトップ・プロのほとんどがオリンピックに参加するよう

になってきており、少しずつその価値も上がってきた。杉山もアトランタオリンピックでベスト16の成績を残しているが、オリンピックに参じて、あのなんとも言えない異様な熱気のなかで熱視線を浴びた経験を思い起こせば、もう一度あの舞台に立ってみたいと彼女も思はず。

杉山は、昨シーズンの全仏オープン、ウィンブルドンでダブルスで優勝し、シングルスでも4回戦に進出した。ツアー最終戦“チャンピオンシップズ”……世界でシングルスたった8人、ダブルス4組しか出場できない大会……にも、シングルス・ダブルスともに登場。いまの杉山の勢いからして、彼女ももしオリンピックに出場することになれば、「メダルも遠くない」というのは言い過ぎだろう。

なお、オリンピックは同NOC選手同士でしかダブルスのペアが組めないので杉山のパートナーは日本選手となる。

ボート

文 白髪 隆幸

伝統の競技ボートがオリンピックに初めて登場したのが第2回のリオ大会。したがってアテネでボートが実施されるのは初めて(1906年の中間大会では実施されている)となる。

アテネでは片手で1本ずつ両手で2本のオールを漕ぐスカル種目と両手で1本のオールを漕ぐスケープ競技が実施される。男子はシングルスカル、ダブルスカル、クオドブルスカル、舵なしペア、舵なし

軽量級に活路を見いだしたい日本漕艇

級舵なしフォアの8種目が、女子はシングルスカル、ダブルスカル、クオドブルスカル、舵なしペア、エイド、軽量級ダブルスカルの6種目が実施される。

昨年の世界選手権で日本選手がアテネ出場枠を獲得したのは男子軽量級の3種目のみ、9位になった武田大作(ダイキ)と浦和重(NTT東日本東京)が、すでに代表に決定している。

体重制限のない種目では、小柄な日本選手は不利と、日本ボート連盟は軽量

級(男子は平均70kg、最高72.5kg以下。女子は平均57kg、最高59kg以下)に絞って強化しており、残りの男子軽量級舵なしフォアは8人の候補選手を3月に合宿、6人に絞り込み、最終的には6月に編成する予定。女子軽量級ダブルスカルは4人の候補選手を1月の合宿で3人に絞り込み編成する予定だ。

いずれにせよ、軽量級3種目に活路を見いだしたい日本だ。

WEIGHT LIFTING

ウエイトリフティング ドーピング失格が明暗を分ける

文 宮崎 恵理

アテネオリンピックへの選手出場枠と代表選考に向かって重要なポイントとなつたのが、昨年11月に開催された世界選手権大会だった。この大会では、出場した選手の各ポイントを合計した国別ランキングが算出され、それにしたがってアテネへの出場選手数が決定する。男子の場合、ランキング6位以内26名、7~13位で5名、14~20位で4名と続く。シドニーオリソピックから正式種目となった女子については、9位以内4名、10~14位3名、15~17位2名となっている。

全日本チームとしては男女とも出場枠の2番手、つまり男子5名、女子3名をアテネへ送り込むべく、世界選手権に向けてまい進した。

当然、オリンピック直前となる世界選手権でいい記録を出した選手は、アテネの代表選考の王手をかけることになる。というのも、一昨年行われた世界選手権大会では、オリンピック選考にからまない

世界大会であったため、各國とも出場選手は必ずしも最強メンバーといふわけではなかったが、今大会はアテネへの出場枠と選手の仕上がり状況、メダルの行方を占う大会として、ベストメンバーが出そろうことになるからである。

その世界選手権で明暗が分かれた。男子はランク外の0名、女子は17位で2名の出場権を得るという成績に終わった。ところが、その後のドーピング検査によって上位チームに失格者がでたため、男子はランクがあがって3人の出場権を得、女子は18位となり出場権0になってしまった。

日本チームで期待がかかるのは、男子105kg超級で出場する岩崎宇宙、105kg級の吉久久也選手。世界の強豪の中で見て体格的に恵まれていると言い難い日本人選手が、重量級で実力を伸ばしてきている。これは、10年ほど前からイングランドや国体のジュニアクラスにも重量級が設けられ、若年層から重量

級を目指してトレーニングを積めるようになった成果がここ数年で表れてきたことによる。吉本選手はジャーナル、スナッチのトータルで自己ベスト400kgの記録を保持。アーランタ、シドニーに続く3度目のオリンピックに賛げている。

一方、女子は4月にカザフスタンで行われるアジア選手権にて最後の望みを賭ける。ここでランク上位4カ国に入れば1名の参加枠が与えられる。

最終選考は5月、アテネ直前に行われる全日本選手権後に決定される予定だ。それまでは合宿を重ね、選手同士を常に競わせる環境において記録への士気を高めていくトレーニングを中心に行っていくという。現時点でのアテネでの展望では、メダル獲得は厳しいもの現実だ。が、伸びてきた重量級選手らの活躍に期待したい。

〈取材協力(社)日本ウエイトリフティング協会常務理事・岡本実氏〉

HOCKEY

ホッケー

文 設楽 淳子

女子は史上初の本大会出場、男子は出場権を逃す



近年の強化が実った女子ホッケー(Photo by J.T.)

■アテネ・オリンピック女子ホッケーのグループ分け
(Aグループ) 日本、中国、アルゼンチン、ニュージーランド、スペイン
(Bグループ) オーストラリア、ドイツ、韓国、オランダ、南アフリカ

日本におけるホッケー誕生の瞬間はおよそ100年前、1906年へと遡る。そしてオリンピックへの参加は1932年ロス大会から始まり、初参加ながら銀メダルを獲得している。戦後は1960年のローマ大会を皮切りに東京、メキシコと歴史に名を残すが1972年ミュンヘン大会に出場できなかつたことでオリンピックとの距離は遠のいてしまった。しかし、オリンピックに向けての選手の道はアジア大会を始めとする国際大会で徐々に広がり選手強化を続けてきた。その間、世界的な人工芝フィールドへの変化などの流れを追いつつ常にオリンピック出場を大きな目標に歩み続けてきた。

そこで迎える2004年のアテネオリンピックは特に日本のホッケー界にとって大きな意味をもっている。

ホッケーのオリンピック出場枠は大陸予選大会での優勝とオリンピック予選大会での上位の成績といづれの道が用意されている。前回は、2000年3月シドニー・オリンピック予選を大阪で行うことでの開幕気を盛り上げ、男子は出場まであと一步といふところに詰め寄った。この時は残念な結果ではあったがその勢いを落とすことなく、今回は2004年3月のスペイン、マドリードでのオリンピック予選出場を決めたが、出場12カ国中、上位7カ国がオリンピックの切符を手にするといふ極めて狭い門で、現在のワールドカップランキン12位といふ日本男子の位置から見て可能性は五分と思われた。しかし残念ながら実力どおりの結果に終わりアテネへの出場権を逸した。

一方の女子はオリンピックに競技が登

VOLLEYBALL バレーボール

〔文〕AJPSNEWS編集部

5月の世界予選に すべてをかける



大山加奈 (Photo by N.M.)

■アテネ・オリンピック世界最終予選日程

【女子】
5月 8日 対イタリア
5月 9日 対タイ
5月11日 対ナイジェリア
5月12日 対ブルガリア
5月14日 対韓国
5月15日 対中華台北
5月16日 対ロシア
【男子】
5月22日 対アルゼンチナ
5月23日 対中国
5月25日 対オーストラリア
5月26日 対イラン
5月28日 対カナダ
5月29日 対フランス
5月30日 対韓国

代表権獲得はならなかった。11月に地元・日本で開催されたワールドカップで3位以内に入るのがアテネへの最短距離だったのだが、女子が5位(7勝4敗)で男子が9位(3勝8敗)。女子は、栗原恵と大山加奈の19歳コンビの台頭などもあつたが、あと一段階のレベルアップが要求される結果。男子は最優秀選手賞とベストオーバー賞を獲得した山本隆弘の活躍はあったものの、力の差を眼前に突きつけられた。

しかし、アテネへの道が閉ざされたわけではない。2004年5月に日本で行われる世界最終予選で、3位以内に入れば出場できる。4位以下でも、アジア大陸予選(世界最終予選がアジアの国々には大陸別予選となる)で、世界3位以外の国の中でトップとなれば代表に決まるのだ。

「8チームの中の4つですから、女子は何か出場権を獲得してくれると思っています。若い素材が台頭していますので、

今回は何とか出場して、次の北京五輪でメダルを狙いたい。男子は世界と戦っていくにはまだ、素材が不足しています」

こう語るのは日本バレーボール協会の豊田博専務理事。代表権を取れた場合、全日本の合宿で選手を絞り込んでいく。合宿段階できちんとした人が決まっているわけではなく、最終的に、オリンピック本番までに12人の代表が決まっていく。

それにしても、もしも代表権が取れなかつたら男子は3大会連続、女子は2大会連続で檻舞台に立てないことになる。日本が弱くなった原因を、協会としては

次のように考えているという。

- ①長身選手が少ない。組織的に発掘していく必要性がある
- ②好素材を発掘しても、長期育成する場がなかった
- ③指導者の能力不足

すでに昨年(2002年)から各県に発掘員を置き、中学生段階から魅力ある素材を積極的に中央にまとめ、一貫育成システム作的に着手している。女子に関しては、ナルシナル・トレーニングセンターとして機能する施設も確保できた。日本の指導者たちが、世界のトップを取ったことのあるコーチたちから、学ぶ機会を設けている。

ビーチバレーも代表を送り込めるかどうか、状況は同じような感じだ。こちらはワールドツアーや世界選手権など、選考対象競技会でのポイント累計(各ペア上位8大会)で、世界23位までのペアが出場権を獲得する。

「男女を通じて少なくとも1ペアは出場させたいですね。この競技の課題は高校・大学の選手層が薄いこと。北京では入賞を狙いたいのですが、まずは底辺の拡充が一番でしょう」(豊田専務理事)

女子では両競技とも、北京へ見通しが立てられるようにならなかったが、男子はこれからが頑張りどころ。男女ともトップの強化は当然として、長期育成システムにも抜本的に取り組み始めた。豊田専務理事も言うように、アテネ五輪はなんとか出場して経験を積み、2008年の北京で世界のトップと戦いたいといいビジョン。アテネ五輪への出場が、そのビジョンの現実化への大きな一步となる。

GYMNASTICS & RHYTHMIC GYMNASTICS 体操・新体操

〔文〕山崎浩子

男子体操はメダル獲得に期待



塙原直也 (Photo by S.H.)



鹿島丈博 (Photo by S.H.)

昨年8月、アメリカ・アナハイムで開催された世界選手権での活躍に、体操関係者は久々に心を躍らせた。

1995年世界選手権・鯉江大会以来、実に8年ぶりのメダル獲得。それも二つの金メダルで、「予想以上の出来」というのが強化本部の本音でもあったが、これで一挙にアテネでのメダル獲得も現実味を帯びてきた。

団体一つ、個人総合一つ、種目別二つで「メダル四つは堅り」のではないかと、関係者の一人は予想する。個人総合では、安定した力を見せる富田洋之と、二世選手の塙原直也がしのぎを削り、金メダル争いをしてくれるのではないかという期待も抱いている。

昨年11月の全日本選手権が第1次予選となり、4月の2次予選、5月の最終予選を経て6名の選手が選ばれる。塙原と同じ二世選手の笠松昭宏や、金メダル獲得で一躍有名になった鹿島丈博と男子体操陣の層は厚く、ただの夢物語では終わらないだろう。

また女子体操はアーティスティック世界選手権団体総合14位で、団体でのアテネ出場はならなかった(12位まで)。個人2名の出場枠にほったが入賞は難しく、新体操とともに、もう北京へ、あるいはその先のオリンピックに向かわなければならないだろう。近々、北京対策本部が立ち上がることになるが、一刻も早く冬の時代を抜けたいところである。

さて新体操のほうは、昨年9月末にハンガリー・ブダペストで開催された世界選手権において、オリンピックの切符を勝ち取るべく奮闘した。

しかし、個人競技は一枚獲得したもののが、団体競技は16位で、8位までに与えられる出場権を逃した。各地から、プロボーション、柔軟性、身体能力などによって選出された選抜メンバーであったが、當時使える練習場所がなかったことや経験の浅さがあたり、過去最低の結果となってしまった。シドニーオリンピックでは5位入賞し、アテネでのメダルも期待されていただけに、非常に残念である。

個人競技は、たった一つの枠を巡って、昨年11月の全日本選手権を第一次予選とし、4月に代表決定競技会が行われた。世界選手権で活躍した村田由香里が、横地愛、中村八千代のライバルを破り出場枠をゲットした。

BASKETBALL

バスケットボール

【文】増島みどり

女子が宿敵・韓国を破り アテネへ



韓国を破った日本 (Photo by Y.K.)

■アテネ・オリンピック女子バスケットボール出場国

【Aグループ】
オーストラリア、ブラジル、ギリシャ、日本、
ナイジェリア、ロシア

【Bグループ】

中国、チェコ、韓国、ニュージーランド、スペイン、
アメリカ

■日本女子スケジュール

8月14日 対ブラジル
8月16日 対ナイジェリア
8月18日 対オーストラリア
8月20日 対ロシア
8月22日 対ギリシャ
8月24日 優勝決定戦 (A5位、6位の場合)
8月25日 準々決勝 (A4位以上の場合)
8月27日 準決勝、順位決定戦
8月28日 3位決定戦、決勝

女子バスケットボールのアトランタ五輪以来となる2大会ぶりの出場権獲得は、関係者の誰もが「奇跡」と呼ぶような粘りによって達成された。仙台で行われたアジア予選準決勝、対韓国戦は時間内に決着がつかず、延長、そして再延長にまでもつれ込んだ。最後は日本が81-72で、2002年世界選手権4位の強豪・韓国を下して2位以内を確保し、3位以内が出来得るために日本は「ホーム」となる国内(仙台)でアテネ五輪の出場を決めることになった。

日本は若手、ベテランのフル稼働で勝利をもぎ取ったに対し、韓国は勝負どころでベテランに依存していたといふ。「わがチームのきょうの出来は時間とともに落ちて、勝負すべき時間帯に50%だった。対して日本は120%で戦った」と、韓国側に言われた。まさに「総力戦」の勝利であったといえる。翌日の朝刊ではスポーツ新聞がすべて一面で快挙を掲載。日本協会では、各地団体や関連団体すべてに、強化の勢いがつくことに大きな期待を寄せている。アテネ五輪での目標は、アトランタ大会での位を上回ることに置く。現在はまだ強化日程は決定していないものの、年度予算でもアテネ五輪用の枠を十分に使って予算を確保する。

堀内事務局長は「前回出場を上回る入賞を目指し、強化合宿、また国際親善試合なども強化の一環として行い、十分なサポートをしてまいと考へている」と、リーグ戦終了後、初夏から始まる本格的な強化についてのプランを明かす。女子バスケットでも国際レベルでは大型選

手が主軸となっているが、日本は試合を通じたスピードと、守備からの速攻、正確な3ポイントシュートを持ち味としており、すでに決定しているギリシャ、ナイジェリアなどとのグループ6チームの中では別グループにアメリカ、中国、韓国等、勢いをつけて上位を目指す戦略である。

一方、昨年9月のアジア予選で出場権を逃がしてしまった男子については、2006年に日本で開催される世界選手権への強化対策が始まっている。同大会までの契約を結んでいる、ナショナルチーム・パリセビッチ監督(クロアチア)は、世界的には身長2mの選手たちがシューティングガードを務める現状を捉え、「日本にも若く有能な大型選手が増えている。男子は、世界の高さとも戦わなければならぬ」と、大学生から2mを超える有望選手の育成を今後2年間の最優先課題にあげている。アジアでは堀内氏も「トップの中国を除けば2位から10位までが大混戦の状態。世界選手権への強化は、そのまま北京五輪へつながるはず」と話す。

実業団スポーツの過渡期にあって、踏みこえた女子の健闘と、出場は逃がしたもの、2年後、地元で行われる世界選手権での上位入賞を目指した男子の強化の「2輪」を、より円滑に回転させることが、2004年の、日本バスケットボール界の目標となる。



浜口京子も金メダル候補 (Photo by J.T.)

WRESTLING

レスリング

【文】安藤正純

女子は金メダルが 複数期待できる

予選の実施時期は3種目(男子のフリーアンドスタイル、女子フリー)でそれぞれ異なるが、すでに1次予選が終了して、現在は2次、3次予選を待っているところである。

アメリカとフランスで行われた1次予選は、フリーがベスト10位まで3名(55kg級、66kg級、74kg級)、グレコが同1名(74kg級)、話題の女子はベスト5位まで4名(48kg、55kg、63kg、72kg級)の出場権を得た。女子は全階級で獲得したところである。

グレコとフリーは本年2~3月、東欧3カ国とウズベキスタンで2次と3次予選が行われた。指導陣は「2次ではフリーでベスト5位までに2名、グレコは3名を。3次ではフリーとグレコとともにベスト4位までに1名を獲得したい」と語っていたが、最終的には3種目とも4名ずつ、計12名の出場権を狙っている。

五輪への派遣規模はそういうわけで選手が12名、コーチは種目ごとに2名ずつ、トレーナー1名の計19名となる。注目したい選手は、女子では55kg級の吉田沙保里(中京女子大)、63kg級の伊調馨(中京女子大)、そしてプロレス界で「アニマル」の異名を取った実父をコーチに持つ浜口京子(72kg級)。すでにオリエンックの代表に決定している女子48kg級は月13日のプレオフで伊調千春や坂本真喜子に勝ち代替権が与えられた。

男子フリーは55kg級の田南南部(警視庁)、66kg級の池松和彌(日体大助手)、74kg級の小幡邦彦(総合警備保障)、グレコは55kg級の豊田雅俊(警視

庁)、60kg級の笛木睦(総合警備保障)、74kg級の永田克彦。永田は新日本プロレス所属のレスラーである。

最終選考は4月12、13日に駒沢体育館で。収容能力が大きい会場なので、AJPSの取材枠は「10名(らいまで大丈夫)(広報部)。なお浜口京子の人気から女子(クイーンズカップ)出場時には多くの取材枠が予想されるため、事前の人数調整が行われるかもしれない」という。

五輪でのメダル獲得目標は「女子3、フリー、グレコ1の計5個」だ。もちろん全部、金メダルである。選手には「レスリング・ニッポン復活」への大きな期待がかかっている。

代表選手に決定した選手は海外合宿を積極的に実施して経験を積んでいくが、国内での強化は基本的に国立スポーツ科学センター(東京)を拠点とする。また、世界選手権大会前に実施した100日合宿を1月の月中旬より行っており、オリンピック直前まで度数の合宿を行う予定だ。

YACHTING ヨット アテネの海に日の丸を!

〔文〕元川悦子

日本セーリング連盟(JSAF)は今、このスローガンを掲げ、アテネオリンピックに向かって選手強化に取り組んでいる。

前回のシドニーフイブ輪では、470級男子(2人乗り)、同女子(2人乗り)、ヨーロッパ級女子(1人乗り)、レーザー級男子(1人乗り)、フォーティナナイナー級男子(2人乗り)、ミスマッチル級(=ウンドサーフィン)男子(1人乗り)、ミスマッチル級女子(1人乗り)、以上の7クラス10人を派遣。今回も同規模の選手団を送りたいようだ。

現時点での五輪出場枠を確保しているのは、470級男女、レーザー級男子、ミスマッチル級男女の5クラス。ヨーロッパ級女子とフォーティナナイナー級男子については、今年4~5月にアイルランドアテネで行われる世界選手権で、出場枠獲得

を目指す。

95年世界選手権では、当時の470級第一人者だった中村健二が総合2位に入り、96年アラタナ五輪では、470級女子で重由美子・木下アリア組が銀メダルを獲得するなど、華やかな時代を送った日本セーリング界。しかしその後は新たなタレントの台頭が少なく、選手レベルが頭打ちになっているのが実情だという。JSAFの登録選手数は1万2000人程度と少ない。世界のセーリング先進国であるイギリス、オーストラリア、アメリカなどにも、徐々に水を開けられつつある。JSAFとしては、いかにセーリングを普及し、競技人口を増やしていくかといつては、今年4~5月にアイルランドアテネで行われる世界選手権で、出場枠獲得

動車工業)が急速に力をつけ、パートナーである轟賀二郎(関東自動車工業)とともに、世界選手権で11位と好成績を収めた。2002年の世界選手権で日本の五輪出場枠を確保した、ライバルの石橋謙・後藤浩紀州(フリーカー)組もうかがして、られない状況だ。アテネへの切符は、今春の世界選手権で日本人1位になった方が手に入れるところになっている。たった1つの枠を巡る戦いは、非常に興味深いところだ。

女子の注目選手は470級の井嶋千寿子・生田真紀子(ともに東亜建設工業)ら。経験と実績のあるコンビだけに、上位進出も夢ではないだろう。

アテネ五輪まで残りわずか、JSAFとしては、国内強化合宿と海外遠征で、さら

に競技力の向上を図っていくという。

CANOEING カヌー 史上初のナショナルチーム合宿で出場枠獲得を目指す

〔文〕白髭隆幸

現在獲得しているアテネへの出場枠を問うと日本カヌー連盟理事でJOC専任コーチの細瀬秀氏は苦笑を浮かべて答えてくれた。

「実は現時点では一つも取れないんですよ。3月末に香川県の坂出で開催されるアジア予選選考会を目指して強化プランをたてているところです」

カヌーはヨーロッパ諸国、ハンガリー、ロシア、イラン、ボラドニア(アゼルバイジャン)、プラットウォーターは昨年9月のゲインズビル(アメリカ)の、スロバキムは昨年7月のアーモンブルク(ドイツ)の世界選手権で、上位の国・地域(まずアテネへの出場枠が確約された。アジアでは中国が女子の一部の種目で出場枠を獲得。アジアでは、まずは抜け

て強、中国がすでに獲得していて、その他の国・地域でアジア枠を争う種目が狙いめど、というわけだ。

カヌーも昨年のSARSの影響で4月、5月のヨーロッパ遠征、そして中国での合宿が中止になり、強化に大きな影響が出た。細瀬氏は、「現状では日本は世界で17~20位の実力。このままで、オリンピックの出場権は得られません。そこで日本から優秀な選手を多名(ほど)抜きアブド(昨年11月から12月にかけて)内合宿に入りました。12月にマオカで開催されるアジア選手権で力試しをした後、年が明ままでから1月15日から3月15日まで再び国内合宿。戸田の国立艇庫と西が丘のナショナルトレーニングセンターの施設を利用します。そして4月のアジ

ア予選でアテネでの出場枠を得られれば、4月から5月に石川県小松市で合宿、その後ヨーロッパで開催されるワールドカップを転戦、そのままアテネに入る予定です」。

アジア予選で勝てそうな有望種目は、女子カヤックのペア、ファアなど、すでに中国が

アテネへの切符を取っている種目。ライバルは韓国、ウズベキスタン、カザフスタンなど。

史上初めてとなるナショナルチーム結成で文字通り背骨の神を救くカヌー。強化の責任者の細瀬氏は、「なんとか一つでも多くのアジアで出場枠を獲得、次に黙っていきたい。北京オリンピックを目指して中国が強化に大変力を入れているので、その中国を目標に若手の強化から力を入れていきたい」と語っている。

HANDBALL ハンドボール

〔文〕増島みどり

北京を目指して再建中



韓国にあと1歩に迫った日本男子(Photo by J.T.)

ハンドボールの男子は昨年9月、神戸で行われたアテネ五輪アジア予選で、韓国と対戦を争い(出場1枠)最後は、2勝1分けで並びながらも得失点差で敗れてしまった。

また女子は、このアジア予選では4位と出場権を逃がしたが、昨年12月の世界選手権にアジア代表のカザフスタンが出場を取りやめたために、急ぎ繰り上がりで出場。ここで上位に入れれば五輪出場も可能だったが、16位となり、こちらもアテネ出場は逃がしている。これまで男子は88年のソウル五輪以来、女子は76年モントリオール五輪以来、オリンピックへの出場が途絶えている。多くの団体競技が、不況による企業の撤退、経費節減のための廃部といった実業団スポーツの激変期での苦悩を味わっているが、五輪出場を逃がしたハンドボールも厳しい状況に置かれているといえる。

団体競技での躍進は、女子のソフトボールとホッケー、プロ出場が可能な男子サッカー、野球のみ、男女バドミントン、女子は出場権を獲得したが、男子バスケットボール、男子ホッケーと、かつての日本スポーツ界を牽引してきた競技が低迷する中、JOC・竹田会長も「企業スポーツの過渡期にあって、団体競技の苦悩、将来的な強化については深刻に考えると話しており、男女ハンドボールが出場権を逃がしたことは単に一競技団体の落胆にはとどまらない問題である。

一方2008年の北京五輪、またその前にある世界選手権といったビッグイベントへの強化は着実に続けられ、協会は種をまさき始めている。特に男子は、アテネ五

輪を目指して推進してきた、有望な若手選手のための「アテネ・プロジェクト」について、関係者は大きな成果があったことを2年の財産として大切にしている。

神戸でもその存在を各國から注目された、宮崎大輔(当時日本大)は、プロジェクトの一員として協会がスペインへ派遣したホープ一人だった。バルセロナをはじめ、2部のクラブに在籍しながらメンバーとして試合に出場。宮崎もどんな試合でも1試合、ワンプレーにかける執念が運んでいた。本当にいい勉強をさせてもらった」と留学の手ごたえを話している。アジア予選後、日本大を中退して強豪・大崎電気へ入社した。

こうした若手へのプロジェクトの好影響から、従来は難しかったが、大学生の内田雄士(日大)がナショナルチームのレギュラーに定着するなど着実な成果をあげできている。

ハンドボール協会の茂木均・事務局長は「すでに、来年の世界選手権予選(兼アジア選手権)に向けて準備も始まっている。五輪は残念だったが、たとえ地味でも堅実な活動をしていきたい」と、ナショナルチームの強化だけではなく、日本リーグのチームを通じた地域に根ざした貢献と強化、そこから派生する小学生や子どもたちの競技人口増加、そうした活動にもすでに着手している。日本リーグのOB、OGの人材登録といった新しい試みも始まっており、失った出場権を取り戻す次へのステップを踏み出している。

CYCLING

自転車競技

文 設楽淳子

競輪プロ選手の活躍に期待



大曾小百合 (Photo by T.F)

自転車競技は近年新競技としてオリンピック入りしたマウンテンバイク、そしてロードレース、トラックレースの中長距離と短距離に分かれている。すでにマウンテンバイク（クロスカントリー）は男子1名の出場枠が決定しており、女子は世界ランキングによって1名の出場枠が決まって来る可能性を残している。代表決定は今年のJAPANシリーズの結果で6月に決定される。

ロードレースは男子がアテネ五輪に向けて新設された世界選B（世界選手権）に出場できなかった国（日本）の選手のみが参加するオリンピック出場枠（ための予会）で2名が出場枠を獲得。女子は惜しくもならず、昨年5月から今年4月までの年間成績ランキング上位100名以内に1名入れば2名の出場枠が決定されることになっている。

ロードの代表選手は5月の全日本選手権で決定される予定。

トラックレースは中長距離については出場枠を獲得することを断念し、男女ともに短距離に焦点を絞ることになった。現在、女子500mタイムトライアル1名の枠を大曾小百合選手が自ら獲得している。ナショナルチーム入りしている選手は大曾のみなので代表もおそらく大曾になると思われる。

男子短距離は3人1チームで行うチームスプリント。1kmタイムトライアル、スプリント、ケイリンの4種目がある。出場枠の流れはまず、2月から始まるワールドカップ1～4戦（モスクワ・メキシコシティ・マンチエスター・シドニー）の個人累積ポイントによって各国に与えられる。そして5月オー

ストラリアで行われる世界選手権の上位者の国にも出場枠が与えられる。

世界の強豪が劉を競う世界選手権での一発勝負よりは連戦で積み重ねのきぐワールドカップに機会を絞るという考え方から、すでにナショナルチームを昨年9月末日に8名（短距離）発表した。自転車短距離は日本においては競輪選手の独壇場であり、一方で競輪界の宣伝を担うという側面があり多大な期待を抱いている。選手は競輪選手としての職務とナショナルチームの一員としてのトレーニングの両立が迫られる。今後は合宿とワールドカップ等のレース、その合間に出来る限り競輪参加という8人にとつてハートな日々が待っている。

短距離の出場枠は最大6人。中心となるチームスプリント（3名1組）の選手が他のスプリント・ケイリン・1kmタイムトライアルの選手を兼ねることができ、なおかつ3種目は2名ずつ出場枠を取れる。この組み合わせをどうするかは各団に任されるが、まずは出場枠を取れての話である。

目標はトラック男子短距離についてはどこかくメダル。可能性はないとは言えないが、世界との差は侮れず未知数。他の種目はすべて出場し善戦できればとうところだろう。

なお、現在発表されているトラック短距離のナショナルチーム8名は以下のとおり。神山雄一郎・山田裕仁・伏見俊昭・金子貴志・長塚智広・矢口啓一郎・井上正己・永井清史。

TABLE TENNIS

卓球

文 石川 聰

愛ちゃんはアテネへ行く



福原愛 (Photo by T.H)

すでに本大会への出場を決めているのが、女子シングルスの梅村礼（日本生命）と藤沼唯衣（ミキハウス）の二人だ。

昨年の5月19日から25日、フランスのノリで開催された世界選手権後、国際卓球連盟（ITTF）はランキング委員会を開き、新しい世界ランキングを発表した。その20位以内の選手にオリンピック出場権が与えられたが、梅村、藤沼のランクインは当時、それぞれ26位、30位と、順位をクリアしていなかった。ただし、この選考には本国（地域）について2人までという条件があったために、3人以上が20位以内に入っている中国などの選手が資格を失い、日本の両名が繰り上がって権利を得た。

なお、この時点で女子ソフトボール、ヨットの男子470級がオリンピックへの出場を決めているが、個人種目における代表内定の第1号となった。梅村は初のオリンピック出場、藤村は2000年のシドニーダー大会に続くひのき舞台である。

オリンピック本大会のシングルスは、男女とも各64人の選手が出場するが、一つの国（地域）からは最大3人と決められている。つまり、日本の女子シングルスに残された切符は1枚。ただし、この1枚を確保するためには、4月9日から13日、中国の北京で開催されるアジア大陸予選会で、上位70人に入らなければならなかった。この予選会には3人のエントリーが可能だったが、その後の通過により、すでに梅村、藤沼が本大会出場権を手にしていた日本は、一人しか参加させることができなくなった。

昨年12月13日に開かれた日本卓球

連盟の理事会で、その一人が「愛ちゃん」とこと15歳の福原愛（ミキハウス）に決定した。福原は、前述の世界選手権でベスト8入りを果たし、12月1日に発表されたITTFランキングでは38位。そして、中国での予選会において見事、出場権を獲得。卓球の日本人選手では、史上最年少の代表となった。

一方、男子シングルスは、昨年5月のITTFランキングで該当者がいなかったため、北京での予選会に期待をかけることになった。この予選会に出席した3人の選手は、松下浩二（ミキハウス）、新井岡（グラブリ）、遊澤亮（東京アート）。そして、この3人また、本大会への出場権をつかんだ。

また、ダブルスは予選会で女子の小西杏（ミキハウス）・福原愛ペアが本大会出場権を獲得。男子は出場権を手に入れることができなかったため、シングルスの代表3名のうち、2名をペアリングし、1ペアが本大会に出場する。

MODERN PENTATHLON

近代五種

（文）石川 聰

3大会ぶりの出場を
目指すも苦戦が続く

射撃（エアピストル）、フェンシング（エベ）、水泳（200m）、馬術（飛越障害）、ランニング（3000m）によって競う近代五種は、前回のソニー大会から女子が加わり、アテネ大会には男女各32名が出場する。だが、日本には女子選手がおらず、アテネ大会を目指すのは男子のみとなる。

アテネへの切符をつかむには、予選の役割も果たす各種の国際大会で上位に入らなければならぬ。それらの大大会に割り当てられている出場枠は、男女とも次のとおりだ。

日本は1960年ローマ大会以来、ボイコットした1980年モスクワ大会を除き連続出場を果たしてきたが、1996年アトランタ大会、2000年シドニーカーと、選手を派遣できなかった。今回のアテネ大会について、（社）日本近代五種・バクスロン連合の菊池孝事務局長は、「非常に厳しいでしょうね」と見込みを語る。

位9名、2004ワールドカップから6名（指定された3大会から上位2名ずつ）、ワイルドカードともいえる3地区（欧州、アジア、アフリカ）委員会招待1名、そして開催国（今回はギリシャ）が1名と割り振られている。

すでにオリンピック出場権を獲得した選手が上位に入った場合は、下位の選手が順位に繰り上がる。ワールドカップは1年に4回行われ、各地を転戦。これらの大会の入賞者は、ワールドカップファイナルに参加する。

日本は1960年ローマ大会以来、ボイコットした1980年モスクワ大会を除き連続出場を果たしてきたが、1996年アトランタ大会、2000年シドニーカーと、選手を派遣できなかった。今回のアテネ大会について、（社）日本近代五種・バクスロン連合の菊池孝事務局長は、「非常に厳しいでしょうね」と見込みを語る。

FENCING

フェンシング 団体戦の出場逃すも個人の出場枠を確保

（文）白髭隆幸

フェンシングは第1回大会から正式競技になっている伝統の競技。日本も第15回ヘルシンキ大会に牧真一が出場して以来、幾多の選手をオリンピックに送ってきた。

フェンシングではフルーレ、エペ、サーブルの3種目が実施される。それぞれ個人と団体種目があり、女子はフルーレとサーブルの団体が実施されないため男子は6種目、女子は4種目で金メダルが争われる。

アテネ・オリンピックの出場権は、世界中

貴族のスポーツとして発展してきただけに、欧州諸国が圧倒的に強く、アジアでは2008年北京大会に向けて強化する中国を、韓国が猛追しているのが現状。日本は黒田昭二（警視官）が、2000年4月にソウルで行われたワールドカップで15位となつたが、それ以降は苦戦を強いられている。射撃については、エアピストルとはいえ、銃に対する意識の差もハンディだ。「外国では競技用具といふ考え方ですが、日本では武器とみなされてしまいます」と菊池事務局長。銃刀法の制約もあり、競技を始めるのはほとんどが大学卒業後。競技者はいきおい、警察官、自衛官に限定される。4~5歳で（子供用の）銃を握るハンガリーのような国と、大きな差が生まれてしまうのも当然だろう。



谷亮子（Photo by S.I.）

JUDO

柔道

（文）白髭隆幸

出場全員のメダル獲得が目標

昨年9月に大阪で開催された世界柔道選手権で金メダル6個を獲得、大活躍した日本選手団だが、アテネ・オリンピックでは団体と無差別級は実施されないため男子100kg級の井上康生、女子78kg級の阿武教子、70kg級の上野雅恵、48kg級の谷（旧姓田村）亮子の4人がデイエンディング・チャンピオンということになる。

全日本柔道連盟の上村春樹強化委員長は、世界選手権の成績に満足しながら、「銀メダル1、銅メダル2は予想外の結果でした。もちろん、日本は全階級の派遣を考えていますが、世界大会でオリンピック出場枠を取れない階級の男子3、女子2あります。まずアジアの代表枠を確保するのが一番の仕事です」と語る。



井上康生（Photo by S.I.）

■女子代表選手
48kg級 谷亮子（ヨク自動車）4回目
52kg級 横澤由貴（三井住友海上火災保険）
初出場
70kg級 上野雅恵（三井住友海上火災保険）
2回目
78kg級 阿武教子（警視庁）3回目
78kg級 砂田真希（結合警備保障）
初出場
■代表候補選手
57kg級 日下部基栄（福岡県警察）
63kg級 谷本歩実（マツダ）

■男子代表選手

60kg級 野村忠宏（ミキハウス）3回目

81kg級 塙内裕志（旭化成）初出場

■代表候補選手

66kg級 内藤正人（旭化成）

73kg級 高松正裕（旭化成）

90kg級 豊浦（明治大4年）

毎回厳しくなるオリンピックの出場枠。前回までは世界選手権7位までの選手に与えられていたが、今回からは5位までがスレートインになった。世界選手権で枠が取れない階級はアジアで獲得しなければならない。これも男子5人、女子3人と狹き門だ。釜山アジア競技大会25%、清洲アジア選手権25%、そしてカザフスタンの最終予選が50%という成績配分で割り振りされることが決まっている。

一方、日本の国内選考も熾烈を極める。まず昨年11月の講堂館大会が第1次選考会となっており、年が変わってから春まで海外遠征に選手を派遣して腕を磨かせている。そして最終的には4月の体重別選手権の成績を鑑み、過去の実績を加えて選手が選考されることになっている。

BADMINTON

バドミントン

(文)白髭隆幸

アジア勢が有力な希少な競技



米倉加奈子(Photo by J.T)



佐藤翔治(Photo by J.T)

バドミントンは1992年のバルセロナ大会から正式競技になった比較的オリンピックでは新しいスポーツ。オリンピック種目の中ではアジア勢が強い希少な競技である。

バルセロナでは、男子シングルスで3位になったデンマークのローリセン以外のメダリスト・全てがアジア代表という有り様だった。4年後のアトランタでも男子シングルスの金メダリストこそホイユーラーセン(デンマーク)だったが、その他の14個の金銀銅メダルはアジア人の手に触している。

4年前のシドニー大会でも、女子シングルスでデンマークのフーティンが銀メダルを、混合ダブルスでアーチャー・グード組(イギリス)が銅メダルを獲得しただけ。残りのメダルは中国、インドネシア、韓国で分け合った。今年のアテネでは情勢は大きくは変わらないと思われる。

アテネ・オリンピックでは男女シングルス、男女ダブルス、混合ダブルスの5種目が実施される。それぞれ32人(組)しか参加を許さない狹き門。

出場枠は、2003年9月1日から2004年4月31日までの世界選手権、トマス杯、ユーバー杯、世界各地で開催されるグラントリーグ大会の成績で得られるポイント(10試合以上出場の場合は良い試合のポイントを選ぶ)で順位をつける。国際バドミントン連盟(IBF)世界ランキングによって配分される。オリンピックには一つの国と地域から各種目最高3名(組)しか出場できないし、地元ギリシャには最低1枠が与えられるので、5月に発表されるランキングを見るまで、誰が出場できるかはっきりしない。

ない。

参考までに日本選手のランキング上位者は、男子シングルスが21位の佐藤翔治、24位の山田秀孝、26位の佐々木翔、35位の松本徹。女子シングルスが10位の米倉加奈子、14位の森かおり、35位の赤尾美代。男子ダブルスが17位の大東忠司・舛田圭太、30位の仲尾修一・坂本修一。女子ダブルスが8位の中山智香子・吉高桂子、10位の山本静香・山田青子、18位の岩田良子・井田美幸。混合ダブルスが17位の大東忠司・山本静香、27位の今井紀夫・中山智香子となっている。

ランキングだけからいえば女子のダブルスが、世界のレベルに近いことがよく分かる。女子シングルスの米倉にも期待したいところだ。

SHOOTING

射撃 メダルを期待したい伝統の種目

(文)田尻 格

アテネ・オリンピックのライフル競技の5種目(男子=①50m3姿勢120発、②50m伏射60発、③10mエア・ライフル立射60発。女子=④50m3姿勢60発、⑤10mエア・ライフル立射40発)、ビストル競技の5種目(男子=①50mブリーフ・ビストル40発、②25mラビット・ファイア・ビストル60発、③10mエア・ビストル60発。女子=④25mビストル60発、⑤10mエア・ビストル40発)の合計10種目が行われる。

2004年2月27日現在、ビストル種目で男子2名、女子3名の合計5名の出場が決まっている。

【男子】
中重勝(40歳、広島県警)=10mエア・ビストル60発。アトランタ、シドニーに続く3回連続出場。三崎宏之(3位)、ファイナル3位で、3大会ぶくとなるメダルの期待がある。

田澤修治(35歳、自衛隊体育学校)=25mラビット・ファイア・ビストル60発。

【女子】
福留智子(34歳、YOKO INADA スポーツクラブ)=10mエア・ビストル40発。アトランタ、シドニーに続く3回連続出場。実力があり復活が期待できる。

小西ゆかり(25歳、自衛隊体育学校)=25mビストル60発。若手の伸び盛り、年4回行われているワールドカップで安定した成績を残している。

【女子】
中重勝(40歳、広島県警)=10mエア・ビストル60発。アトランタ、シドニーに続く3回連続出場となるベテラン。

みのダブルマッチで実施される。

最高力候補は、男子10mエア・ライフル60発の柳田勝(34歳、自衛隊体育学校)と、女子10mエア・ライフル40発の三崎宏之(27歳、日立情報システムズ)である。柳田は、ハレスコナ・アランタ、シドニーに続く4回連続出場。三崎宏之(3位)、ファイナル3位で、3大会ぶくとなるメダルの期待がある。

日本の通算メダル獲得数は、金1個、銀1個、銅3個。体の動きが少ない個人種目である射撃競技には、メンタルな強さと集中力が求められる。選手たちは所属先で指導を受けながら、代表監督の藤井優(55歳)の下で身心をリフレッシュする方法、体調管理、集中力の高め方など、メンタルトレーニングを重ねている。

EQUESTRIAN

馬術 障害飛越団体は上位の可能性あり

(文)飯塚健司

障害飛越、馬場馬術、総合馬術。オリンピックでの馬術には3つの部門があり、日本はすべて障害飛越の団体戦・個人戦への出場権を獲得している。馬場馬術、総合馬術は今後は個人戦での出場権獲得のチャンスが残されているが、現実的にみて出場権獲得の可能性は極めて小さいとい。したがって、アテネオリンピックの馬術競技は日本から出場するのは、障害飛越に挑戦する4名になる。

障害飛越のオリンピック予選は、昨年6月にドイツのアーベンで行われた。中近東、アフリカ、アジア、オセニアの代表を決める同大会で、日本は見事に4位となった。このときに出場していたのは、林忠義(北総乗馬クラブ)、杉谷泰造(移谷乗馬クラブ)、加藤

麻里子(ライディングクラブアルカディア)、柳井俊樹(乗馬クラブクライ)の4名。しかし、アテネオリンピックではこの4名がそのまま出場するわけではない。

今後に行われるFEI(国際馬術連盟)公認の大会結果から判断して、6月を以て出場権獲得者が決定される。本大会で好成績を収めるために、最強の4名がJEF(日本馬術連盟)によって出場されるわけだ。また、団体のほか個人の出場枠も獲得しており、最優秀選手が個人種目に出場する。

候補となるのは、上記の4名に加えて、板垣祐子(東京都馬術連盟)、渡辺祐香(ヤマハつま恋乗馬クラブ)、広田龍馬(那須リーディングファーム)など。ちなみに、こうしたトップレベルの選手たちは、他のスポーツと

同様、やはり海外を拠点に活動している。

アテネ大会に目を向ければ、まずは決勝ラウンド出走が目標となる。しかし、「本大会での得割(競走コース)は難しく、地力がないと上位進出は望めないのも事実」(渡辺弘・日本馬術連盟常務理事)だといふ。

馬術では過去、戦前の2002ロサンゼルス大会で金メダル(障害飛越個人)を獲得。戦後は92年バルセロナ大会7位(総合馬術団体)、96年アトランタ大会6位(総合馬術団体)という成績が残されている。そして、近年のふたつの入賞は、アトランタ大会でサッカー男子がブразルに勝利した以上の快挙だといわれている。2004年アテネでは、これらの再現となる活躍が期待される。

BOXING

ボクシング 出場権獲得を目指し奮戦中

(文)石川 聰

最近は女子のボクシングも盛んになってきたが、オリンピックで行われているのは男子の競技のみ。体重別に実施されるが、その階級は軽い方からラットフライ級(48kg以下)、フライ級(48~51kg)、ノンヒューム級(51~54kg)、フェザー級(54~57kg)、ルア級(57~60kg)、ライトエリート級(60~64kg)、ウェルター級(64~69kg)、ミドル級(69~75kg)、ルアヘビー級(75~81kg)、ヘビー級(81~91kg)、スーパーヘビー級(91kg以上)の11クラスに分かれている。

アテネ大会のアジア第1次予選は今年1月12日から17日、フィリピンのペルトプリンセサで開催された。日本アマチャーボクシング連盟は、ラットフライ級からミドル級までの8階級に各名2つの選手を派遣した。ライトフライ級が五十嵐優幸(東農大)、フライ級が村橋薫(自衛隊)、ノンヒューム級が大西寿幸(日本大)、フェザー級が正山聰門(中央大)、ルア級が内山高志(青龍観光)、ラ

イウエルター級が深石恭夫(香川県連盟)、ウェルター級が平田直人(日本大)、ミドル級が佐藤幸治(自衛隊)という8選手だ。

この第1次予選でオリンピック出場権を獲得できるのは、ライトフライ級からフェザーリング各階級の上位3名、ルア級以上が同2名となっていて。日本は残念ながら第1次予選における出場権獲得はならなかったが、最本大会への切符に近づいたのは、ウェルター級の平田とミドル級の佐藤。平田は全日本選手権4連覇、昨年のアマチュア最優秀選手、佐藤は全日本選手権3階級制覇(1999年ウェルター級、2000年ルア級、2002年ミドル級)という実績をもつ選手で期待されたが、ともに第1次予選の準決勝で敗退し、あと一歩のところでの涙をのんだ。

予選は、3月18日から26日まで中国の益陽で行われた第2次、4月23日から28日ま

でノキスタンのカラチで行われた第3次と続き、「アテネ」への望みをつなぐ。

オリンピックにおける日本の活躍ぶりを振り返ると、メダル獲得は3回あった。最も輝かしいのは、1964年東京大会で金メダルを獲得した桜井孝雄(ノンヒューム級)だろう。1960年ローマ大会ではラットフライ級の田辺清、1968年のメキシコ市大会ではノンヒューム級の森岡宗治が、いずれも銅メダルを手にした。

しかし、1988年ソウル大会でノンヒューム級の松島勝之が準々決勝に進出(5位)したのを最後に、入賞から遠ざかっている。前回の2000年シドニーカンガーランド大会では、ノンヒューム級の辻本利和、フェザー級の塚本秀彦が、それれアジア第2次予選、同第3次予選を勝ち抜いて本大会に出場したが、前者は回戦、後者は1回戦で敗退を喫した。



この笑顔がもう一度みたい (Photo by J.T.)



アジア予選は3連勝で乗り切った (Photo by J.T.)

ARCHERY

アーチェリー 女子団体はメダル候補

(文)白鬚隆幸

アーチェリーは1900年より開催された第2回大会に始まった伝統の競技だが、一時中断され、1972年の第20回ミュンヘン大会で復活した。

復活した当初は異なった抵触を撃ち得点を争うITAラウンドルールで実施されたが、1992年のバルセロナ大会からは、組み合わせを決めるランキングラウンドのみポイントで争い、決勝は64名のトーナメント戦で行うオリンピックラウンドで実施されるようになった。1984年のロサンゼルス大会までは個人種目だけだったが、1988年ソウル大会からは3人組の

団体種目も実施されるようになった。

日本は1976年のモントリオール大会で男子個人で道永宏が銀メダルを、1984年のロサンゼルス大会で山本博が銅メダルを獲得。アジアでは最強を誇っていたが、生徒と思って、矢頭豊(1988年)と朝日(1992年)が個人種目で優勝した。

男子もベテラン山本博らの活躍で個人、団体も出場権を獲得しており、久々のメダル獲得も夢ではない。

アーチェリーは第1回アテネ大会のメンズスタジアムになった大理石の古式ゆかしいノンシナイコスタジアム(マラソンのゴールになる駒刺場)で実施される。ぜひ日の丸を伝統のスタジアムで翻してほしい。

BASEBALL

野球

(文)人見和生

金メダル有望だが、望まれる長嶋監督の快復

札幌ドームで昨年11月5日から行われた04年アテネ五輪アジア地区最終予選(アジア野球選手権2003)で、中国(13-1)、台湾(9-0)、韓国(2-0)を撃破し、見事アテネ五輪への出場権を獲得した日本代表。

長嶋茂雄監督が「長い野球人生のなかでも、これだけ素晴らしいチームを持ったことはありません」と感極まった。オールプロ開幕21選手による快挙だった。

アテネ五輪の野球競技は、04年8月15日からスタートする。日本代表の今後のスケジュールは、以下の通りになる。

3月31日 JOCの出場選手第1次エンブリー縮め切り。この日までに約40選手を絞り込む。
6月下旬 出場24選手選出。
7月13、14日 壮行試合(東京ドーム)。
7月15日 JOCに代表24選手の名簿を提出。

7月21日 JOCへのエントリー最終縮め切り。
8月5日 日本代表、合宿地イタリア・バルマへ向け出発。

8月6日 事前合宿スタート。
8月13日 アテネ五輪開幕。

8月15日 出場8チーム総当たりによる野球競技スタート。
(15日対タイ、16日対オランダ、17日対キューバ、18日対オーストラリア、20日対カナダ、21日対中華台北、22日対ギリシャ)

8月24日 上位4チームによる準決勝。
8月25日 3位決定戦、決勝。
本番ではペチ入り登録選手権が、24名と拡大(予選は22名)される。

だが、出場選手はプロ野球のペナントレースのまっ最中に、約1カ月間拘束されることになる。そこで、極端な戦力不均衡を防ぐためという理由で、出場は1チーム2選手以内とされた。これで予選のときのような巨人から、上原、高橋由、二岡、木佐貫の4選手の出場というケースはなくなった。さらに、米大リーグ機構は、メジャー選手の出場を認めていないことから、今季からメジャー入りした松井稼頭央もこのメンバーから抜けることになる。

とはいっても、長嶋監督の意気は高い。

「予選は通過しましたが、究極のテーマはアテネです。2004年は抜かりないチーム編成をして、8月に勝負をかけます。おそらく予選のメンバーを中心になるとでしょうが、故障で出場できなかった選手や、野間口投手などアマの有望選手も2~3枚入れます」

アメリカ、韓国が予選落ちし、最大のライバルであるキューバも有力選手の相次ぐ亡命などで戦力ダウン。かなりいい色のメダルを期待してかまわないだろう。

病に倒れた長嶋監督の一日も早い快復が、望まれる。

SOFT BALL ソフトボール

白髪隆幸

悲願の金メダルを目指す 宇津木ジャパン



あれから4年。団結力は高まつた(Photo by J.T.)

アテネ・オリンピックの出場権を28競技中最初に確保し、金メダルも期待されるのがソフトボールだ。

アテネ・オリンピックの金メダルは8カ国で争われるが、まず2001年7月26日から8月4日までカナダのサスカatoonで開催された第10回世界選手権のベスト4(アメリカ、日本、中華台北、中国)に出席枠が与えられた。残りの4カ国は、開催国のギリシャ、そして予選を勝ち抜いた北中南米代表のカナダ、アジア・オセアニア代表のオーストラリア、そしてヨーロッパ、アフリカ代表のイタリア。

すでにオリンピック本大会の日程も決定している。まず、8チームが総当たりで戦う第1ステージ、その上位4チームで争う第2ステージに分かれる。日本は8月14日に開幕戦でオーストラリアと戦い、以下15日に中華台北、16日にアメリカ、17日にカナダ、18日にギリシャ、19日にイタリア、20日に中国と連戦していく。

オリンピックは世界選手権よりも2名少ない1名しかエントリーできない。たぶん、ピッチャーはマックスで4名しか登録できないので、苦しいローテーションになることが想像される。

8チーム中4位(普通ならば3位)に入れば第2ステージに進出できる。ソフトボール独特のページシステムが採用され、まず第1ステージ1位と2位、3位と4位が戦う準決勝(8月22日)。1位・2位戦の敗者と3・4位戦の勝者が順位決定戦(22日)。敗れたチームが3位)。そして勝者同士が戦う決勝戦(23日)という、ちょっとややこしいシステムだ。

日本ソフトボール協会の横田事務局

次長の話では、やはりアメリカが実力的に抜けっていて、日本以下、大接戦が予想されそうだ。日本としては、なんとか第1ステージで2位に入り、メダルを確保し、その後で最後はアメリカに挑戦して勝つ、というのが最良のシナリオだそうだ。

前回のアメリカは、第1ラウンドで3敗しながら、最後は日本を破って金メダルを獲得した。やはり底力は世界一なのだ。

日本はシドニー・オリンピックの第1ステージでアメリカに勝って以来、その後はアメリカに勝っていないか、いずれも1点差の惜敗が続いている。宇津木ジャパンには、アテネ本番でぜひ「打倒アメリカ」の悲願を達成してほしいのだ。

TAEKWONDO テコンドー

人見和生

厳しい五輪への道



岡本依子(Photo by T.M)

テコンドー競技は、WTF(世界テコンドー連盟)ルールで認められた階級制(体重別)で戦われる。基本的には男女とも8階級制だが、五輪に限っては4階級制。男子が58kg級(58kg未満)、68kg級(58kg以上68kg未満)、80kg級(68kg以上80kg未満)、80kg超級(80kg以上)。女子が49kg級(49kg未満)、57kg級(49kg以上57kg未満)、67kg級(57kg以上67kg未満)、67kg超級(67kg以上)に分けられている。

現在WTFには約170の国と地域が加盟していて、韓国を頂点に、イラン、ギリシャ、キューバなどが強豪国に数えられている。しかし、五輪出場枠は、1カ国(あるいは地域)とも男女各2階級まで、1階級1選手のみ。どんなに強い国でも男女各2選手、計4選手までしか出場できないのだ。

出場枠を獲得するための予選は、昨年12月4~7日にフランスのパリで開かれた「アテネオリンピック世界選手権大会」。この予選大会出場枠も、五輪と同様、各國・地域とも男女各2階級、各級1選手計4選手で。

この大会で例えば、日本の男子選手1名が準決勝(4位以内)に進出すれば、日本の男子チームに五輪出場枠ひとつが与えられる。男女各1選手もべつにすれば、出場枠が最大の1を獲得できるというわけだ。

獲得枠が3以下だった場合は、2004年2月14日にタイで開かれた「アジア地区選考大会」がチャレンジの場。ここで1選手が決勝進出(2位以内)すれば、1枠が獲得できるのだ。しかし、予選でめで

たく出場枠を獲得した選手が、そのまま五輪出場が約束されているわけではない。予選大会のあと5月あるいは6月に、五輪出場選手を決める最終選考会が予定されているのである。

日本の期待される選手としては、男子では相原儀雅(あいはらよしまさ)26歳、58kg級、山下博行(やましたひろゆき)30歳、68kg級、樋口清輝(ひぐちきよき)22歳、68kg級、有田充臣(ありたみつしげ)30歳、80kg級ら。

女子では、畠中恵美(はたなかめぐみ)30歳、49kg級、畠山美奈子(はたけやまなこ)26歳、57kg級、岡本依子(岡本依子)32歳、67kg級といった面々がいる。

岡本はシドニー・オリンピック77kg級銅メダリスト。今回もアジア選考会で2位になり自力で出場枠を獲得。候補選手の内定を得た。

しかしながら、日本のテコンドー競技団体は現在、全日本テコンドー協会と日本テコンドー連合の2団体に分裂しているため、JOC(日本オリンピック委員会)から絶縁されてしまった。このままでは、いくら選手ががんばっても、五輪出場の道は閉ざされたまま。最終期限とされた3月31日までに両団体は統一されず、JOCはエントリー締め切りぎりぎりの4月28日まで出場できる可能性を探るようだ。

すでにアジア枠を獲得している岡本はJOCが独自で派遣する考え方を固めた。両団体の1日も早い一本化を願っている。

TRIATHLON

トライアスロン

文/白髭隆幸

メダル獲得を狙う人気競技



Photo by J.T.

AJPS
NEWS
21

30
APRIL
2004

前回シドニー大会からオリンピックの正式競技の仲間入りしたトライアスロン。新しい競技だが、短時間でマラソンに勝るとも劣らぬ人気を勝ち得た。

一人のアスリート1.5kmのスイム(ワイルドウォーター)、40kmのバイク(自転車ロード)、10kmのラン(ロード)の計51.5km、オリンピックディスタンスで実施される。自然の風光明美なコースが設定されるのでテレビで見ていても楽しく、それが人気を高める一因になっている。

アテネ・オリンピックには男女ともそれぞれ50人が出場できる。出場権は世界選手権の1位から3位の選手、大陸選手権優勝者の他、世界各地のワールドカップでの成績によって与えられるワールドランキング上位者39名、開催国ギリシャに1枠、国際トライアスロン(ITU)が選ぶワイルドカード2枠、計50名に与えられる。

現在の世界ランキングの情勢から日本には男女とも3枠ずつ獲得でき予定(1NOCから最大3名しか出場できないため)。日本選手の選考方法は下記の通りと公表されている。

①2003年世界選手権で3位以内(該当選手なし)

②2004年世界選手権(5月9日、ポルトガルのマデイラ)の20位以内の日本最上位選手

③上記大会終了時点における世界ランキン20位以内の日本最上位選手

以上で与えられた参加枠が埋まらなかった場合は、2004年世界選手権出場者の中から強化本部が候補者を選出することになる。なおも決まらない時はオリンピックでメダル獲得、もしくは入賞可能な

選手を強化本部が候補者として選出し、日本トライアスロン連合(JTU)理事会、JOCの承認をもって正式決定となる。

国別出場枠の決定は5月14日、選手決定は5月16日が予定されている。JTU常務理事の大塚真一郎氏は、「期待が先行して結果に繋がらなかかった前の轍を踏まぬよう、エントリーフィーリングの三宅義信先生を強化対策本部長に招き、厳しい条件を選手に課してきました。今回は入賞、あわよくばメダルというところまで競争力が向上してきました。トライアスロンの普及のためにも今回は日本選手の活躍を期待しています」と語っていた。

来年の9月には愛知県蒲郡市で世界選手権の開催も決定されている。将来の布石のためにも好成績を望みたいところだ。

アテネ本番の日程は女子が8月25日、男子が8月26日となっている。

第2回AJPS杯ボウリング大会 成功裏に終了

昨年12月2日、DOスポーツプラザ晴海にて第2回ボウリング大会(および懇親会兼忘年会)が開催されました。

会員、賛助会員、関係者あわせて総勢61名という大盛況になりました。参加者、ご協力いただいた方々に心より感謝いたします。

なお、2004年の年末にも、さらに発展した形でボウリング大会を開催する予定です。春の総会と懇親会、年末のボウリング大会と忘年会をAJPSの二大行事として恒例化いたしますので、どうぞよろしくお願いいたします。

AJPS総務委員会

■第2回AJPS杯ボウリング大会成績 (2ゲーム合計)

個人の部優勝	櫻田勝彦(OB会)
団体の部優勝	渡辺達也
	大森良子
	和田直人
	望月次朗
特別賞	小林 洋
学習したで賞	藤田俊男
安定しての賞	藤田孝夫
ベストガーター賞	大橋俊夫

○○編集後記
白髭 隆幸



初代チャンピオンの田村さまから会へ贈呈されたカップを授与される優勝者の櫻田さん(左)

4年に1度のオリンピックイヤーということもあり、今日はアテネ・オリンピックで実施される競技をライター会員全員で手分けして取材、1冊の会報を作りたいということになりました。

ふだん取材していない競技も多く、担当の分担は公平にくじ引きで決定しました。慣れない取材に協力していただいたライター会員の皆様、そして取材を快く引き受けただきました競技団体担当者の皆様に心よりお礼申し上げます。

来年度アテネ・オリンピックが無事に開催され、日本選手がベストの活躍をされますことを心からお祈りしております。ただいた会員の方々にも種々



見よ! 荒川会員の美しいフォーム。成績は53位でした

AJPS 日本スポーツ
フレス協会会報 APRIL
21 30 2004

編集・発行人 水谷 章人
編集スタッフ 白髭 隆幸
編集協力 光本 淳(色えんびつ)
編集・発行所 日本スポーツフレス協会(AJPS)

〒112-0013 東京都文京区音羽2-1-10 開闢ビル603

TEL. 03-3946-9033

FAX. 03-3946-9033

HP. <http://www.ajps.jp>

E-mail:info@ajps.jp

本誌掲載記事、写真を無断で転載することはできません。

AJPS
NEWS
21

31
APRIL
2004



日本スポーツプレス協会

Canon

CREATE

PRO-LAB FOR CREATIVE PROFESSIONALS

 **FUJIFILM**



Kodak

 **KONICA MINOLTA**

**SHASHIN
kosha**

Nikon

OLYMPUS

PENTAX



TOKYO
VISUAL
ARTS